

1 1 現 職 教 育

< 目 標 >

- 一人ひとりを生かし 心身ともに健康で 自ら学ぶ力育てる。
- ・本校の教育目標をもとにして、学ぶ楽しさに気づかせる具体的な研究・実践を進める。
- ・子どもの学校生活を向上させるため、教師自身の資質の向上をはかる。

< 研究主題 >

「互いに認め合い、運動の楽しさとできる喜びを実感できる体育」
～かかわり合い、高め合う大野っ子をめざして～

(1) 主題について

27年度から研究委託を受け取り組んできた「海南省体力向上指定校事業」と「全国学体研の分科会会場校」の研究が、本年度いよいよ発表の年となった。昨年の反省を受け、引き続き同じ研究主題のもと研究を進めることにする。

昨年は、中間発表として2Aの体づくり運動と5Aのボール運動の研究授業と協議を持ち多くの先生方に参加していただき、これまでの研究の成果を十分発揮できた。多くの実践交流から研究テーマにせまるための工夫ある授業が確立された。特に、教材・教具・掲示物などの場の工夫が十分なされ、子ども達も意欲的に楽しく活動できた。お互いを認め合うような声かけも意識し、よりよいかかわり合いの姿に近づいてきている。

しかし、「これが大野の体育です。」と打ち出すものがまだまだ弱く、大野の体育の特性をより明確にするための工夫が必要である。また、4つの視点の中では、視点3・4の課題が大きいので、重点を置いて取り組んでいきたい。具体的には、

- 1 指導計画を綿密にし、見通しをもたせる
- 2 声がとび交う授業をめざし、声かけの型・期待する言葉を準備する
- 3 話し合い活動の充実に向け、他教科でも取り組む
- 4 学習カードを工夫する
- 5 自分の「のび」・友達の「のび」に気づかせる 等

を意識し、授業づくりに努める。そうすることで、運動が苦手な子・体育が好きでない子も意欲的に授業に取り組み、全体が「学び」のある活動につながると考える。

また、普段の生活は、相変わらず、体を動かす機会の少ない子・姿勢の悪い子など個々に気になる児童がいる。教科外の取り組みもより工夫していく必要がある。

さらに、これまでの取り組みを継続することに加え、体育の授業の在り方を全ての学習に反映させ、「体力・学力・人間力」をバランスよく育てていくことを目標にする。

(2) 研究の方法・進め方

- ・全員が学力向上部・人間力向上部の2部会に分かれ、目標達成のため取り組みを検討していく。
- ・1学期終了後、各学年で体力・学力・人間力について反省し、全体で交流し児童の実態にそって修正する。2月には本年度の反省を交流し来年度の方向を検討する。
- ・研究会に向け、全員が体力向上部に所属し、食育健康環境部と授業研究部に分かれ、研究主題にせまる取り組みや授業作りを検討していく。
- ・低高学年部会を基盤に研究課題を追求し、進んで授業を公開する。
- ・協議会では、授業の視点に沿ったグループ別協議を行い、次につなぐ。
- ・授業研究
全国学体研公開授業（6Aボール運動・3B体づくり運動の2授業）
指導主事訪問（4Aボール運動）・アドバイザー（林先生）訪問
校内の中研の授業
部会だけの小研の授業
- ・現教部会では、現職教育の方針、年間計画、中間見直し、成果と課題等を検討する。
- ・研究効果を高めるため、できるだけ講師招聘・先進校視察などを行う。
- ・実践したことをまとめる。